

◆関連会議

平成 27 年度普及事業検討会

水産海洋技術センター 久保弘文

平成 28 年 3 月 15 日（火）に 27 年度普及事業検討会が、水産会館 4 階において、開催された。内容としては当センター普及事業結果と 28 年度同計画が漁業団体代表他 10 名の委員から全会一致で承認された。

平成 28 年度水産業改良普及事業の計画案については後継者育成システムづくりについて、次のように説明した。現在、ソデイカ乗り子を募集した際に、給与・社会保障等がきちんと漁協等から提示することができていない。そのため、県外からハローワークを通して水高へ来ている乗り子募集の様式等を用いて、求人募集をきちんと書類にすることが必要である。具体的には漁

連から漁協へ、求人募集様式を配布し、記入したものを漁連でチェックして、それをハローワークから各高校へ流すシステムづくりと考えている。実際 4 月から県外より乗り子の募集は来ている、それがあれば、沖縄の子供たちに県内での就労を提示できる。

委員からは普及事業費の少なさについて、意見が多かった。年額 400 万円前後しかなく、振り分けると雀の涙のような状況になってしまう。人員も少ないので、皆さまから増額・増員の働きかけをしていただければと訴えた。



図 1 普及事業検討状況

また話題提供としては、水産物加工支援（米丸）・今期モズク生産状況（牧野）・観光と

漁業のマッチング（上原祐大朗）が報告された。県産水産物加工品開発支援事業につ

いては、県女性連新立会長より、今月開催された女性セミナーにて、浜の声を聴きたいということで、話し合いに出席したが、その中で加工など普及員にはもっと指導し

てほしいことがある。沖縄県では普及員がJAに比べ3分の1しかいないので、普及員を増やすよう要望したとのことであった。



図2 情報提供の状況

今期のモズク生産状況については高水温後の急激な低水温、芽落ち、食害等問題が多岐にわたっており、今後、様々な情報を集約していくと報告された。モズク協議会からも、要請を受けたので、事業を活用して、対策を進める。

伊良部での漁業と観光のマッチングについては、伊良部漁協において平成25年頃から、観光協会等と連携し民泊客や一般観光客を対象にした漁師体験、魚捌き体験などを積極的に行っている。また、そうした観光客に魚食の提供を行うことで鮮魚・加工

品の販売にも繋げている。伊良部架橋が完成し、観光事業に適しており、非常に上手くいっているとのことであった。糸満でも持ち帰って検討したいとの声が上がった。その他、水産課より未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業について情報提供があった。新規就業者においては、独立して3年以内、年齢40歳以内と規定されているが、定年退職してから漁業を始める人もいるので、年齢上限を上げてもらいたいとの要望があがった。